

## 和泉図書館におけるゼミツアーについて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学図書館紀要編集委員会 公開日: 2012-01-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小野, 聡, 畑野, 繭子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/11339">http://hdl.handle.net/10291/11339</a>

# 和泉図書館におけるゼミツアーについて

小野 聡\* 畑野 繭子\*\*

## 1. はじめに

### 1.1. 本学における図書館利用教育への取り組み

明治大学は、『『個』を強くする大学』としてさまざまな教育改革を行っているが、その取り組みの柱の1つが、「教育の場」としての図書館の積極的な活用である。この実現のため、長年にわたって、図書館を学術情報の集積地とするのみならず、その活用を教育課程に組織的・継続的に取り込んできた。具体的には、全学部学生が履修可能な正課授業「学部間共通総合講座『図書館活用法』」による体系的な情報リテラシー教育や、各学部の授業の中で実施する「ゼミツアー」などによる、多面的な教育活動の展開である<sup>1</sup>。

本稿では、以上の取り組みの一つとして行われている、和泉図書館ゼミツアーについて報告する。

### 1.2. 和泉図書館における利用教育

最初に背景として、現在の和泉図書館とその実施利用教育を概説する。

和泉図書館は、和泉キャンパスに所在し、利用対象者は、文科系6学部の1・2年生および教職員を主とした約1万人である<sup>2</sup>。資料は人文・社会科学系を中心とした33.5万冊を所蔵する。

こうした背景を受けて、和泉図書館では、学部学生への初学者向け利用

---

\*おの・さとし / 学術・社会連携部図書館事務室和泉図書館グループ

\*\*はたの・まゆこ / 学術・社会連携部図書館事務室和泉図書館グループ

<sup>1</sup>パンフレット『平成19年度特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）「教育の場」としての図書館の積極的活用—図書館のもつ教育力を教育に活かす—』明治大学、[2007年] 参照。

<sup>2</sup>2008年度から4年間和泉キャンパス学習の国際日本学部、ならびに大学院教養デザイン研究科が設置予定。

教育を主とした、以下のような図書館利用案内を行っている。

・新入生ツアー

(実施時期) 4月上～中旬の新入生ガイダンス時期。

(主な対象) 新入生。

(内容) 和泉図書館の施設・利用案内<sup>3</sup>。所要時間30分程度。

(参加方法) 広報の開催日時に自由参加(事前申込不要)。

・ゼミツアー

(実施時期) 前期：4月中旬～6月中旬、後期：9月下旬～10月下旬。

(主な対象) 和泉地区実施のゼミ・演習授業クラス。

(内容) 和泉図書館の施設・利用案内、OPAC(目録検索)システム説明、各種外部データベース説明、等の中から授業担当教員との事前相談による。所要時間 ～90分。

(参加方法) 教員に配布の申込用紙により事前相談。

・フリーツアー

(実施時期) 6月中～下旬。

(主な対象) 学部学生を中心とした和泉図書館利用者。

(内容) 和泉図書館の施設・利用案内。所要時間30分程度。

(参加方法) 広報の開催日時に自由参加(事前申込不要)。但し、図書館設定以外の日時での希望、および雑誌論文や新聞記事の探し方を知りたい場合は、事前相談。

上記のうち、ゼミツアーは、教員授業内での参加者来館による図書館施設・サービス案内説明である。施設等の限界から、30名までを1グループ上限目安としている。このため、対象は同範囲内での少人数ゼミ・演習授業を主として、また学部1年生が参加者の中心となっている。2007年度の実施回数(=グループ数)は142回、参加学生総数は2541人で、和泉キャンパス在籍学部1年生の48%に相当する(以上2007年12月現在)。

---

<sup>3</sup>図書館各フロアの図書の説明、貸出、レファレンス・雑誌カウンターの紹介とサービス内容の説明など。

## 2. 和泉図書館ゼミツアーの変遷

### 2.1. ツアー内容と実施形式の変遷

和泉図書館でのゼミツアー実施の記録が、資料として明確に保存されているのは1991年度以降である。同年6月発行の『館報』には、「和泉分館」実施として

「◎4/18、5/8～20；参加希望の個別ゼミ：7ゼミ、計101人；1時間15分 分館の館内ツアー：目録検索法説明、各コーナーの案内、開架閲覧室と書庫の見学（教員の希望により学生に特に紹介したい資料を重点的に提示）」

との記載がある<sup>4</sup>。同様のツアーは、それ以前からも実施されていたが、いずれも、図書館側から広報・募集を積極的に行ったのではなく、“教員よりの個別要望があれば”という対応で、また基本的には館内案内のみの範疇であった模様である。

その後、

- ・説明・申込用紙の教員配布といった図書館側からの積極的広報
- ・館内案内以外の説明項目充実（各種情報検索ツールの紹介、ILL制度利用説明、および実習の導入など）
- ・ツアー内容、および基本受付・実施期間の明示

といった改善が行われた。以上を受けた1995年度の和泉図書館ゼミツアー内容を表1に示す。

さらにその後、

- ・内容面では、カード目録の廃止、代行検索・CD-ROMから利用者自身によるオンラインデータベース利用へ、書庫入庫検索説明の導入、等の情報検索ツール・図書館サービス内容の変化に伴う変更。
- ・形式面では、カスタマイズ形式の促進：項目全体の任意選択へ。
- ・受付・実施期間について拡大。前期について、開始を4月中旬～に。また、後期について実施案内を開始（2005年度より）。但し、記録に

---

<sup>4</sup>伊藤光郎「図書館オリエンテーション等を終えて」、『明治大学図書館報』、No.41 1991.6、p.3

よると、実際には、いずれもそれ以前からも希望があれば、同等期間に及ぶ受付実施を行っていた。

等の変更が行われた。

なお、施設・環境の関係から、一時期（2005・6年度）、実習項目が選択肢から除外されたが、その後再度見直しが行われた（後述）。2006年度の和泉図書館ゼミツアー内容を表1に示す。

表1：ゼミツアー内容—1995年度/2006年度

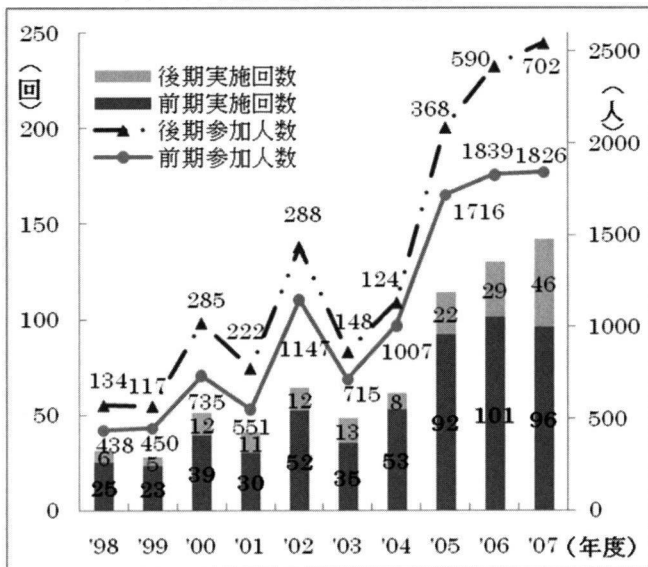
	1995年度	2006年度
実施期間	5/8～30	4/11～5/31；9/27～10/31
内容	<p>※所要時間：オプション込みで計約時間（オプションを希望する場合は、以下の内容を一部省略）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>貸出コーナー・目録コーナー：館外貸出について、カード目録及びオンライン目録の検索法の一般的説明、図書購入申し込みについて</li> <li>参考コーナー：係りの特色と参考図書の種類と機能</li> <li>雑誌コーナー：所蔵雑誌の種類と配置</li> <li>その他：談話室、グループ閲覧室、開架閲覧室、書庫の見学</li> </ul>	<p>※所要時間：以下40分以内で選択。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>館内案内（30分）：参考室、開架閲覧室、新聞・雑誌コーナー等。</li> <li>書庫内の案内（10分）：実際に入庫。</li> </ul>
オプション	<p>※以下、択一</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン目録（端末機検索の目録）の重点説明</li> <li>オンライン目録検索の学生による実習</li> <li>カード目録検索の学生による実習</li> <li>館外資料の入手方法の説明と雑誌記事索引の使い方</li> <li>情報検索（日経 NEWS-TELECOM）の利用案内・CD-ROM（雑誌記事索引、各種新聞など）</li> <li>上記以外：記入式</li> </ul>	<p>※所要時間：以下40分以内で選択。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>OPAC 目録検索説明（20分）</li> <li>外部データベース（各10分） <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ MAGAZINE-PLUS or NDL-OPAC（雑誌記事索引）</li> <li>➢ 聞蔵IIビジュアル（朝日新聞）</li> <li>➢ 日経テレコン21（日経四紙）</li> <li>➢ 法律判例文献情報</li> <li>➢ LEX/DBインターネット（判例情報）</li> <li>➢ その他の外部DB（記入）</li> </ul> </li> </ul> <p>※法律関係データベースについては、検索事項・検索語等を教員が指定。</p>

## 2.2. 実施統計

次に過去の実施統計から述べる。

グラフ1は、ツアーの実施回数・参加学生数の1998～2007年度変化を示す。全般的には増加傾向にあるが、対前年度比での2003年度減少と2005年度増加とが顕著である。

グラフ1: 実施回数・参加人数統計



この点について、表2を参照いただきたい。

まず、2003年度については、前年度より経営学部・商学部の参加数減少が甚だしい。特に経営学部については、カリキュラムの変更に伴い、小・中人数構成から多人数クラス授業への移行が影響を及ぼしていると考えられる。

また、2005年度については、法学部の参加数増加分が大きい。同学部においては「法律リテラシー/教養基礎演習」ゼミの必修化が実施された。さらに、前述のように、同年度から後期実施広報を行ったが、後期実施回数も大幅に増加している。

表 2：学部別実施回数統計

年度	法学部	商学部	政治経済学部	文学部	経営学部	情報コミュニケーション学部	計
2002	0	33	6	4	21		64
2003	0	26	5	4	13		48
2004	1	27	6	7	9	11	61
2005	26	36	13	13	9	17	114
2006	39	38	7	20	8	18	130
2007	48	44	6	18	9	17	142

その他、2007年度の実施記録集計から以下紹介する。

表 3 は、内容別回数、およびその総回数比である。前期と後期とを比較すると、いずれも“実習”は共通して教員より希望が多く、その他では、前期は“全体説明・館内ツアー”が、後期ではオプション（“外部データベース説明”）が、多く要望される傾向にあった。

表 3：2007年度回数内容/オプションの内訳

		全体説明・館内ツアー	実習 (OPAC・NDL 雑誌記事索引)	オプション (外部 DB 説明)	総回数 (実施回数)
前期	回数	90	92	59	96
	回数/総回数	93.8%	95.8%	61.5%	
後期	回数	29	45	37	46
	回数/総回数	63.0%	97.8%	80.4%	

その“外部データベース説明”内訳をデータベース別の実施回数から示したのが表 4 である。後期においては、法律関連のデータベースや、その他のデータベースの希望割合が若干高めとなっている。

表4：2007年度外部DB回数内訳

		MAGAZINE-PLUS	聞蔵II	日経	法律判例 文献情報	LEX/DB	他DB	総回数 (外部DB 選択数)
前 期	回数	22	23	18	21	22	2	59
	回数/総回数	37.3%	39.0%	30.5%	35.6%	37.3%	3.4%	
後 期	回数	11	11	11	13	14	3	37
	回数/総回数	29.7%	29.7%	29.7%	35.1%	37.8%	8.1%	

表5では、実施を曜日時限別に集計した。2・3時限（特に水曜日）に集中が見られるが、同時間帯は、昼食時にあり、和泉図書館においては、各カウンターを開いたまま、交代で昼食休憩をとる体制にあることから、この時間帯の要員確保は困難を伴う。

表5：2007年度回数曜日時限集計

曜日	時限						総計
	1	2	3	4	5	6	
	9：00- 10：30	10：40- 12：10	13：00- 14：30	14：40- 16：10	16：20- 17：50	18：00- 19：30	
月	1	4	10	7	5	0	27
火	3	4	9	8	0	0	24
水	0	15	14	7	3	3	42
木	2	6	8	5	5	1	27
金	5	4	3	2	6	2	22
総計	11	33	44	29	19	6	142
※土曜日、および各曜日7時限（19：40-21：10）は希望なし。							



## 3. 現状

### 3.1. 2007年度内容の検討

2006年度前期のゼミツアー実施後、テーマの一つとして「ゼミツアーの内容を考える」を設定し職場研修を実施した。その際、担当した職員からは「一方的に説明するだけでは学生の理解が深まらない」等の意見が出た。

#### 3.1.1. 学生アンケート

その実感を裏付けるように、法学部山口政信先生が実施した「法学部教養基礎演習における図書館ツアーにおけるグループ別の生レポート」の中には、ゼミツアーに参加した学生の生の声があった。この学生アンケートは、2007年度の企画を立てる際、特に参考にさせて頂いたので以下に抜粋（「要望・感じたこと等」の項目のみ）を掲載する。

##### A グループ

- ・図書館をまわって説明する際全員が集まってから話を始めてほしい
- ・説明が聞き取りにくい
- ・自習をしている人に迷惑となるかもしれないので、ツアーを行う日はその旨を図書館入口の掲示板などに掲げておいたほうがいい
- ・ツアーの「しおり」のようなものがあれば、もっと理解が深まると思う
- ・人数が多い場合は、少人数にグループを分けてツアーをすると、話も聞き取りやすくなると思う
- ・OPACは実際に使ってみないとよくわからないので、実習を交えてもらえるといい

##### B グループ

- ・一般図書や古くなった図書、珍しい図書などの地下書庫だけでなく雑誌書庫というものにも入ってみたかった
- ・全員集まってから説明を始めてもらいたかった、時間が無いのは分かるのだが説明の口調が早くて聞き取れないところが少しかった
- ・明治～昭和初期にかけての初版本をコレクションしていて、さらにそれを閲覧できるというのに感動した

- ・他に図書室を使っていた人にとってツアーは迷惑そうだった

### Cグループ

- ・パソコンの検索システムなど複雑でややこしく感じた
- ・書庫に入ったのが初めてだったので感動し、“さすがが明治大学の図書館！”と思えるような古い本を見ることができてさらに感動した
- ・パソコンでの検索の仕方の説明について

説明方法としては具体例もあり、分かりやすい。しかし、諸所の場合について詳しく説明しすぎているように思えた。いろいろな事態に即しての対処法を教えてくれるのはありがたいのだが、あの短い間では覚えきれないし、使いこなせる学生も少ないのではないだろうか。このような細かいことは図書館を積極的に使う学生向けのガイダンスを設けて、そこで改めて説明をしたほうが良いように思える。今の段階で調べものをする学生は少ないと思うので、調べ方に対して興味を抱く学生も少ないだろう。だからしっかりと聞いている学生も少ないはずで、仮にしっかりと聞いていたとしてもあまり記憶に残らないはずだ。以上の理由から、上級者向けのガイダンスを別途に設け、クラス単位のガイダンスを簡素化することを提案する

- ・説明のスピードが速く、聞き取れないところがあった
- ・時間に押されて、学生が移動し終わらないうちに図書館の人が説明を始めてしまうことがあり、説明を十分に聞くことができなかった
- ・係員の説明中、時々専門用語が使われ理解できないところがあった

### 3.1.2. 教員アンケート

2006年度後期は、ゼミツアーに参加した教員にアンケートを実施した。後期24コマ中回答数は19人であり、回答率は79%だった。質問項目に対してはほとんどの教員が「適当」と回答して頂き、改善点等の意見はあまり無かったが、学生とは違い不満があってもなかなかストレートには記述しにくいことを考えると、記述して頂いた意見は傾聴する必要がある。

#### 質問項目

1. 開催時期は適当でしたか？
2. 所要時間は適当でしたか？

3. 設備面は十分でしたか？
4. 説明内容に不足はありませんでしたか？
5. 例題などは的確でしたか？ ※ OPAC・外部データベースデモ参加の方
6. その他、改善すべき点等ご記入下さい。

意見（全て）

- ・ ツアー中に荷物を一時預かってほしい
- ・ 4・5月に実施してほしい  
→前期にも実施しているが上記のような意見があった。広報不足か。
- ・ 授業1コマに相当する時間が現実的であると思われる
- ・ 限られた時間内の説明としては十分
- ・ 学生数が多いので仕方ないが、実際に学生に操作させる（例：データベース利用）のもよいのではないか
- ・ 教員自身がアシスタントとしてもっと手伝ってもよかったと思う

### 3.1.3. 2007年度の変更項目

職場研修における職員の意見と、学生・教員のアンケート結果を受けて見えてきたことは、教員・学生・図書館員のそれぞれで「ゼミツアーに求める内容の差がとても大きい」という点である。教員は授業並みの濃い内容を期待しているケースが比較的多い。入学したての新入生に外部データベースをいくつも紹介するよう指示するような教員もいる。学生はともかく簡単に・短く・具体的にという希望が強い。学生アンケートの結果からは図書館利用が複雑でややこしい印象を持たれてしまっている感もある。図書館員は図書館の基本的な図書館の使い方以外にも、こんな便利なサービスやこんなデータベースも使えるというように、さまざまな図書館サービスを紹介しがちである。

しかし、教員がゼミツアーに学生を参加させるのも、図書館員が学生に説明をするのも、学生が図書館の使い方及びサービスについて理解し、活用してもらうのが目的のはずである。学生の理解度・満足度が低いことは、その目的を達成していないことと同様である。このため、職場研修とその後の数回のミーティングを重ね、2007年度のゼミツアーは検索実習を導入

することに大きく内容変更することを決定した。

以下は2006年度との主な変更点である。学生・教員アンケートの意見を多く取り入れている。

- ・ PC を使った OPAC 検索実習を導入
- ・ 実習の説明ポイントが担当者によって差がでないよう原稿を作成(詳細な説明になり過ぎないように)
- ・ 集合場所を 1 F 図書館入口から、2 F パソコンルーム 1 に変更(学生から荷物を預かり、全体説明をしてからツアーを開始)
- ・ ツアーの動線の効率をはかり、順路と内容を変更(動きが早いと、説明が聞き取れないことを解消)
- ・ ゼミツアー開催時はその旨を館内に掲示(他の利用者が迷惑そうだったとの意見を受けて)
- ・ 資料として以下を配布
  - 「和泉図書館見取図」A 3 用紙 1 枚 (ツアーのしおり代わり)
  - 「分類・OPAC 検索結果の見かた」A 4 両面 1 枚

## 3.2. 2007年度実施内容

### 3.2.1. 実施内容パターン

2007年度の実施内容は以下の3パターンとした(時間の割り当ては後期のもの)。

- ・ 全体説明+館内ツアー
  - ・ 実習(明大 OPAC+雑誌記事索引)
  - ・ 外部データベース ※2ヶまで選択可。キーワードをかならず指定
- 基本は上記2パターンの実施。外部データベースはオプション扱いとした。

なお、実習導入に伴い、2006年度では1コマ最大2ゼミ受け付けていたのを1コマ最大1ゼミとした。これは実習スペースが1箇所しかなく、上記時間の割り当てでは、2ゼミをツアーと実習と交互に同時並行で実施できないためである。事前対策として、前期のゼミツアー受付・実施期間の終了を6月中旬までの2週間ほど延長したが、それでも、2.2の統計にあるように特定の曜日・時限に希望が集中した場合、希望に添えず次週に変

更してもらったり、時には参加自体を諦めて頂いたケース（5～6件）もあった。全ての希望者に対応できない体制は、いまだ解決できていない問題である。

また、担当者については「全体説明+館内ツアー」は業務委託職員、「実習」「外部データベース」は専任職員とした。

### 3.2.2. 実習環境

全体説明と実習を行うパソコンルーム1は、通常時はオープンPC（大学情報部門が設置したパソコン）5台と情報コンセント付きの閲覧机がある部屋で、利用は自由である。これをゼミツアー実施期間についてはレイアウト変更を行い、オープンPC4台と館内に各所に設置したOPAC専用パソコン5台を集め、実習用として計9台を確保した。参加ゼミは平均18名前後なので、一人一台とはいかないがその際は複数名で利用するよう指示した。職員の説明用画面は2006年度同様、移動式スクリーンとプロジェクター、ノートパソコンで行った。なお、OPAC専用パソコンは、NDL-OPAC等一部を除き学外ネットワークへの接続を制限しており、外部データベース等への接続はできない。



2007年度後期実習風景

### 3.2.3. 実習内容

実習内容を考える際は、2006年度に行ってきた内容をベースとしながらも、説明するポイント・順番・言いまわし等を全員で意見を出し合いながら決めていった。結果、時間的な制限や、内容を詰め込み過ぎないように考慮し、以下ようになった。なお、あらかじめ学生には実習を始める前にランダムに質問することを予告し、集中して実習してもらうよう工夫した。

#### ・明大 OPAC 実習：図書館の資料の探し方（25分）

##### 【実習1】タイトルが決まっている資料を探す

ねらい：資料の場所を探すには「配置場所と請求記号」を確認する必要があることを理解してもらう。全体説明と館内ツアーで分類と開架閲覧室が3ヶ所に分かれていることについて説明済だが、必ず押さえておいて欲しい項目なので再確認してもらう。

##### 【実習2】あるテーマに関連した資料を探す

ねらい：検索結果一覧の中から、自分の求める資料をどのように絞り込むかを実践して理解してもらう。タイトル欄とキーワード欄の違い、出版年のソート、所蔵館の絞込み、分類・件名のリンクによる検索を実習。

##### 【ポータルサービスとは】ポータルサービスで何ができるかを説明

##### 【横断検索とは】NII 検索・山手線コンソーシアムを紹介

#### ・NDL-OPAC 実習：雑誌論文の探し方（10分）

##### 【雑誌とは】

雑誌論文検索については、2006年度も多くの教員が外部データベース「MAGAZINEPLUS」をオプションとして選択してきたこともあり、基本パターンの項目に加えた。ただし、外部データベースでは同時接続ログイン数の制限、インターネット講習会の受講が必要、OPAC 専用パソコンでは接続できない等の理由から、実習はNDL-OPACの「雑誌記事索引」で行った。

また、雑誌についてはいきなり雑誌論文の説明をしても、特に1年生はその必要性の理解が困難と考え、雑誌は一般雑誌と学術雑誌の2種類があること、特徴として図書と比較して情報が早く、1冊

に複数の論文が収録されていること等を現物を示しながら説明した。

### 【実習3】論文を探す

ねらい：OPACでは論文は探せないこと、NDL-OPAC・雑誌記事索引の存在を知ってもらう。

まず初めにOPACで論文を検索し、ヒットしないことを確認。その後、NDL-OPACの雑誌記事索引を利用することにより、求める論文が「どの雑誌の何巻何号何頁にどんな論題で掲載されたか」を把握してから、OPACでのISSN検索を紹介し、一括所蔵の見方を説明する。

かなりシンプルに説明しているつもりではあるが、学生にとってはまだ分かりづらいようであり、さらなる工夫が必要と感じている。ただ、プレゼンやレポートの課題を課されている学生の場合は、もう少し具体的イメージを持って説明を聞いているように思う。

### 3.2.4. 教員アンケート

2007年度も後期に、ゼミツアーに参加した教員にアンケートを実施した。後期47コマ中回答数22人であり、回答率は47%だった。質問項目は2006年度と同様。

意見（全て）

- ・ [開催時期について] できれば夏休み前に実施したい（7月）
- ・ [所要時間について] ツアーが入ると時間が不足する
- ・ [設備面について] PC 1人1台
- ・ 必ず書名から検索することが必要である旨を最初に説明しておく方がいいと思った
- ・ 学生が各自のテーマで調べる時間があると思った
- ・ PCの設定が窓際と内側と相違があったが同一の設定のほうが良いのではないか？
- ・ 実習があるのは良いが、ネットにつなげる端末を用意してほしい
- ・ DBにアクセスできるPCがもう少し多くてもよい

- ・説明が大変有意義なので、検索の技能（応用・絞り込み・#をつける・ISSNの活用など）の一覧を配布資料としていただけると助かります
- ・適宜学生の間をまわってアドバイスなどして頂きとてもよかった。
- ・インターネット講習会を受けていない学生に対する説明があり、状況に応じてアレンジして頂きよかった
- ・コンパクトに洗練された内容で大変わかりやすく参考になりました
- ・満足です
- ・OPACの説明など大変わかりやすかったです。時間配分もちょうど良い
- ・法律系の専門雑誌の現物を示してくれたのはよかった

#### 4. 今後の課題・展望

和泉図書館はゼミツアーの実施回数・参加者数を大きく伸ばしてきた。2007年度については内容の充実を図ってきたが、「参加学部への偏り」「特定曜日・時限への集中希望への対応」「設備面」等いまだ課題が多く残っている。設備面については新和泉図書館建設が予定されている現在大幅な改善は見込めないが、その他の点では改善の余地があると考えている。

改善のための事前準備として、各学部担当事務職員へのヒアリングによる情報収集を考えている。最近では各学部で名称はさまざまではあるが1・2年次からゼミナール形式の授業を行う学部が増えており、その中には大学生として当然要求される文献探索等の情報リテラシーの内容を含むものが多い。また、ゼミツアーが対象としている30人以下の授業ではないが、同様の内容を扱っている授業もあると思われる。当然のことながら、学部のカリキュラムや時間割も毎年変更になる。2.2で述べたように、その変更はゼミツアーへ大きく影響する場合がある。適切なゼミツアーを実施するには、各学部の状況について図書館がもっと知る必要がある。そのためにも学部事務へのヒアリングを行い、適切なゼミツアー内容やゼミツアーに参加しない・できない授業への図書館から教員へのアプローチ方法（出前講習等）を検討する材料としたい。



各ゼミに適したきめの細かい内容のガイダンス、PC 1人1台の実習等、理想はいくらでも高くなるが、現実には職員が日常業務を抱えながらの実施となり、繁忙期には一人が一日3コマを担当することもある。職員数が減少する現在、拘束時間・事前調査等の時間を考慮するとかなりの負担となっている。とは言え、ゼミツアーは和泉図書館として図書館利用教育・情報リテラシー教育の柱である。この柱をさらに太く・安定したものにするためにも、業務委託の活用、ガイダンス内容の定型化等の効率化を進め、改善を図っていきたい。